

## 個人視察報告

成迫 研太 ①

【視察日】 令和8年4月20日

【視察先】 広島県福山市

【調査事項】 不登校児童生徒への対策について

【所感】 組織及び人員体制について確認。対象者および家族への関わりや、関係機関の横断的連携のための工夫がなされていた。

- ・「学校内外のどこにもつながっていない児童生徒をゼロに」を目標に不登校支援チームを設置。組織横断的な対処により未然防止・予防も実施。学校とつながれていない人は家庭の問題を抱えていることがほとんどなので、学校以外とも連携。(福祉面での重層的支援、子育て支援課との検討会(月1~2回))
- ・県とも連携。広島県に住んでいる不登校等の小中学生を支援する県の教育支援センターSCHOOL “S” (スクールエス) のオンラインプログラムを市教委経由で使用できるようにしてもらったことが、連携強化のはずみになった。
- ・こども・若者(定義39歳以下)への支援を充実するため、相談、手続、遊び・交流の機能を集約したネウボラセンター設置。育児の段階から利用できるため、親も施設になじみがあり相談しやすい。また、センター職員はフリースタールの元職員もあり、複合相談にワンストップで対応可能。
- ・メタバースは利用者が多く、R8に倍の20人に増枠。どこともつながれていない人に進めており、メタバースを契機にテストに復帰できた子もいる。他市では空間を作って運営しているが、福山市は入室管理からの完全委託(面談は同席)。割安で利用者の満足度が高い。

【視 察 日】 令和8年4月21日

【視 察 先】 福井県福井市

【調査事項】 観光施策について

【所 感】 新幹線が開通し駅ができるだけでは不十分、ましてや駅もできなければ大きなマイナスが発生とのデメリットが改めて確認できた。大分市における新幹線開通時の効果・影響・対策について議論が必要と感じた。

- ・自治体で明暗。全ての特急と新幹線が接続する敦賀駅はハブ拠点として人流大幅増加。通過される鯖江（メガネで有名）は、在来特急廃止によりビジネス客・観光客ともに減少し、駅周辺店舗の閉鎖など空洞化懸念と衰退傾向。
- ・福井は新幹線駅効果で入込観光客や観光消費額は増加も、期待以下（観光振興計画目標未達）。また、県内宿泊者は、新幹線開通後に増加したがコロナ前には戻らないまま 2025 年は前年比減少。開通効果が一服との見方もあり、リピーター確保が課題であるため、関係人口増加策を検討中。  
※新幹線移動が可能となり、宿泊していたビジネス客の一部が日帰りとなった可能性は否定できず。
- ・インバウンド需要は計画の目標よりも低調（特に宿泊は 26.3%）。県内に空港はなく、最寄りの小松空港に直行便がある台湾をターゲットに市長がトップセールス実施。
- ・施策効果の検証には人流の動向把握が重要だが、分析ができていないため SNS 活用などのプロモーションが難航。一方で、県が FTAS というオープンデータを構築したため市独自のデータ取得はやめた。
- ・MaaS はデジ田交付金を活用し実施中。事業後は民間自走を想定。宿泊税等については県・市ともに未検討。